

## 歌い続ける、 相撲甚句



真ん中が英雄さんの祖父の一郎さん。「朝来山」というしこ名の宮相撲取りでした。他4人の方は一郎さんの子息



英雄さんも田植えの準備で大忙しのようです



益城相撲甚句を聞かせてくれた英雄さん

相撲甚句の愛唱者という、河北英雄さんに出会いました。英雄さんはこれまで、多くの祝いの席で歌声を披露してきたそうです。

そもそも相撲甚句とは、大相撲の巡業などで歌われるはやし歌のこと。角界はもとより花柳界でも歌われたり、各地のご当地相撲甚句なども歌い継がれており、座に集まる人への

一郎さんの化粧まわし姿の写真を見てください。こうした環境の中で大きくなつた英雄さんが、相撲甚句に魅了されていつた経緯がよく分かります。

感謝の思いや、即興を取り入れたりと日本ならではの粹な文化です。英雄さんは幼い頃から祖母が歌っていた相撲甚句を聞いて育つたそうです。「また祖父は宮相撲の相撲取りで『朝来山』というしこ名の、負け知らずの怪力だったと聞いります」と、仏間に飾られた若き日の祖父・

その後、美声で知られた大相撲の元呼び出し・三郎の相撲甚句を聴きながら、独学で喉を鍛えたという英雄さん。熊本相撲甚句会にも所属するなど、活動の幅を広げました。そして益城相撲甚句も継承しているという英雄さんが一節、披露してくれました。

どすこい、どすこい。

益城名所ば甚句に詠めば

春にや桜の辻が峰

しおい(瀬井)や流れる木山川

負ける話は飯田山

いかなる万病治る左の目さん

味のある節回しが、わが町の名所をたどります。他にも、そうめん滝や朝来山、鬼の窟などの名所が登場する益城相撲甚句。郷愁誘うこの歌声を、ぜひとも後世に残したいものです。そして、もつとより多くの人たちに聞いてもらいたいと思いました。

## 川内田の風景 ——心に染みる

川内田の真ん中を貫く道路沿いにある、川内田観音堂。石垣の縁にはケシの花が咲いており、あぜも美しく刈り取られています。どなたかの家の庭先から道路に向かつて咲いて



道路から見えたマルバウツギ。美しい桃色の花姿に見とれます



川内田の中心部にある川内田観音堂

